

福井県繊維卸商協会

「人材育成が第一」

坂井新理事長が抱負



5月29日付で福井県繊維卸商協会の理事長に就任したマツミ（福井市）の坂井一嘉社長は「協会

としては、人材育成への支援を第一に考えたい」と述べるなど、抱負を語った。

坂井理事長は福井産地の産元商社について、「厳しい環境下ながら個々の企業は健闘している。それぞれが強みを持つ事業運営が行うからであり、多様な産元商社群が形成されている」と指摘した。

さらに産元商社間の水平連携も進んでおり「糸加工のボトルネック、染色加工における納期問題などが生じる中で、産元商社の相互関係が深まっている。それが福井産元商社の強み」とも述べた。

ただ、高齢化や人材確保などの問題も顕在化しているとし、新理事長として第一に人材育成に重点を置いた協会活動に力を入れる考えを示した。

その一つとして、若手組織である「ITOMOMO」に対しても「協会としてバックアップしながら、元気のある産地に盛り上げていきたい」と話す。ITOMOMOに対しては、

同協会の若手が集まる青葉会、中堅の荘士会との連携なども視野に入れる。

さらに、これまで社長など経営陣による海外の繊維産地の視察も見直

し、青葉会、荘士会など若手による海外視察。研修に切り替える。来年度からは実施したいとの意向を示す。坂井理事長は

「グローバルが当たり前の時代であり、現場の担う若手が海外の繊維産地の現状を把握することは非常に勉強になる」と語る。その他、衣料用が中心になるが、海外販路開拓に向けても協会として「後押しできるような活動を行う」考えを示す。